



介護現場の負担軽減と事務の効率化が期待できる
介護テクノロジーの普及に向けて

松山市経営者向け介護DXセミナー

CONFIDENTIAL

Copyright 2025 by Zenkoukal

No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any means electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise without the permission of Zenkoukal. This document provides an outline of a presentation and is incomplete without the accompanying oral commentary and discussion.

思考法を変えれば、現場は変わる！ 明日から始める介護DX入門

2025年12月12日
K H三番町プレイス

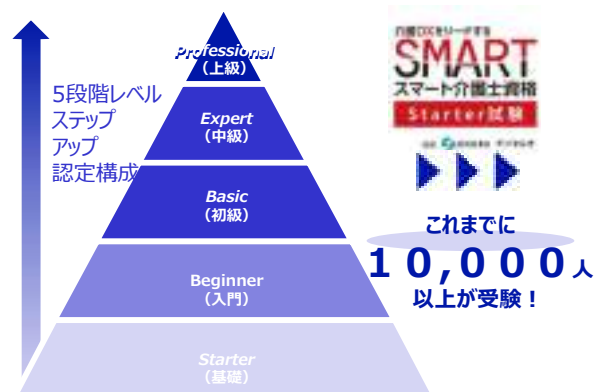
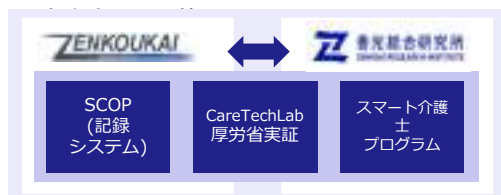


株式会社善光総合研究所について

介護現場・経営・AIの専門家集団が、事業者の課題解決を支援します。

会社概要

法人名称 株式会社善光総合研究所
設立年月日 2022年9月1日
本部所在地 東京都港区南青山6丁目6番22号
従業員数 27名（令和6年11月現在）



代表取締役社長



宮本 隆史 Takashi Miyamoto
2007年社会福祉法人善光会に入職、2013年には善光会内に「介護テクノロジー研究室」を設置、2017年より理事、最高執行責任者、統括施設局長、2023年に株式会社善光総合研究所を立ち上げ、現職
厚生労働省 社会保障審議会検討会等 政府機関の各種委員も務める



経営顧問

藤野 英人 Hideto Fujino
レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役社長、敬啓大学ソーシャルシステムデザイン学部客員教授
2024年9月に株式会社善光総合研究所の経営顧問に就任、新規事業の加速化に伴う会社経営全般・財務面でのサポート



取締役

前川 遼 Ryo Maekawa
2009年厚生労働省に入省、老健局副課長兼生産性向上室グループリーダー、大臣政務官室筆頭秘書官等を歴任、2020年に株式会社ディー・エヌ・エーに入社、CEO室 担当部長、2022年社会福祉法人善光会に入職し、2023年に株式会社善光総合研究所を立ち上げ、現職



技術顧問

松尾 豊 Yutaka Matsuo
東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 / 人工物工学研究センター 教授
2024年9月に株式会社善光総合研究所の技術顧問に就任、SCOP事業などのAI・ビッグデータ活用や介護現場への実装といった技術的な進化をサポート



1. 研修プログラムは
全て善光総研が作成。
内容は、善光会が開発した「スマート介護士育成プログラム」を踏襲
2. メイン講師は、善光総研社員を中心に構成

日本の介護テクノロジー利活用の進展への関わり

善光会の取組・実証等により、介護テクノロジー活用の介護保険制度の改正が実現。

✓ 令和3年度介護報酬改定

見守り機器を導入した善光会オペレーションが、夜勤における日本全体での介護モデルに取り入れられました。

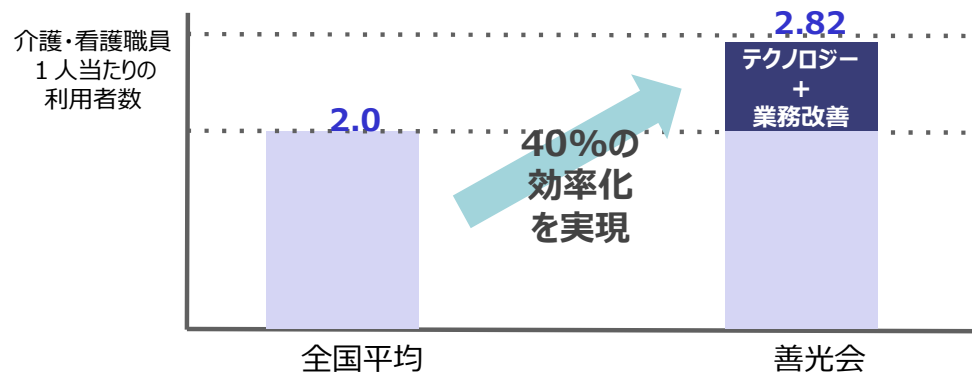
✓ 令和6年度介護報酬改定

新設された生産性向上に関する制度では、善光会で採用している見守り機器・インカム・介護記録ソフトウェアの利用が算定要件として設定されています。

また、弊社代表と内閣総理大臣・デジタル大臣との意見交換や、政府主催の会議における弊社代表の発言を受け、こうした制度の見直しが実施されました。

✓ 今後の制度改定

弊社代表が、介護保険制度上の福祉用具、住宅改修の内容等について検討を行うために国が設置する社会保障審議会の検討会において令和6年度から委員に就任し、今後の制度改定にも参画していきます。



本日のアジェンダ

- 1 なぜ今、変わらなければならないのか
- 2 DXの本質と3つの思考転換スイッチ
- 3 明日からできる“小さな成功”の作り方
- 4 業務効率化×人材評価×オペレーション
- 5 今後の介護経営・報酬改定の方角性

本日のゴール：明日への一歩

機械を入れるだけでは現場は変わらない



ICTベンダーでの経験から得た教訓

ご自身の現場の景色を思い浮かべる

明日から実際に動き出すためのヒントを得る

あなたの現場、20年前から止まっていますか？



変わらない現場



変わり続ける社会



高度な個別ケア
への期待



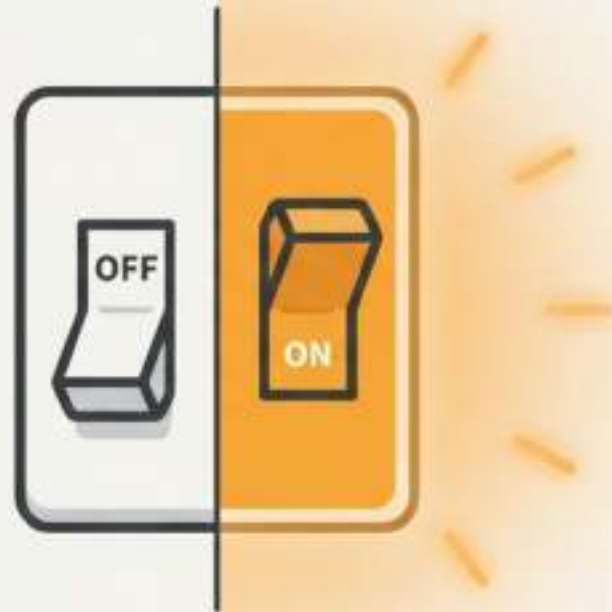
社会全体の
デジタル化



深刻な人材不足

**現状維持は、
後退。**

高い機械を入れることではありません。



DXの本質は、「仕事の再設計」です。

スイッチ**1**：できない理由探しをやめる



「人がいないから無理」



「少ない人数でも
ICTでできるのでは？」

スイッチ2：聖域をつくらない



**法律と安全以外、すべてが見直しの対象。
「昔からこうだから」を疑う勇気。**

スイッチ3：個人の頑張り依存からの脱却



「あの人がいないと回らない」

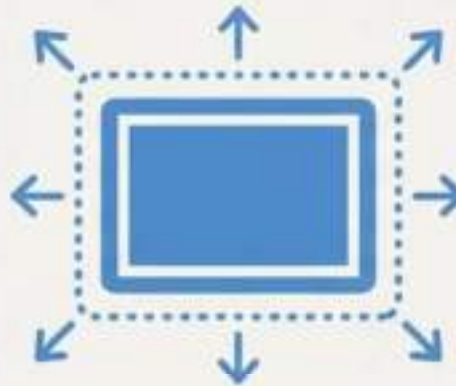


「誰がやってもできる仕組み（再現性）」

思考を変える、3つのスイッチ



できない理由探しを
やめる



聖域をつくらない



個人の頑張りから
仕組みの力へ

「時間がない」からこそ、まず「時間をつくる」

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
9:00					
10:00					
11:00					
12:00					
13:00					
14:00					
15:00					
16:00			業務改善MTG 🕒		
17:00					

- 週に1回、1時間だけ。
- 「業務改善ミーティング」を始めよう。
- （例：重複している転記を1つなくす）

お金をかけずに、明日からできること

ビジネスチャット



音声入力



記録時間は半分に。報告は一目瞭然に。

センサーは「監視」じゃない。 「睡眠サイクルを知る」味方。



不要な訪室

朝まで、ぐっすり



減らすのは、記録の時間。
増やすのは、向き合う時間。



The image is a split-screen composition. The left side shows a person from behind, sitting at a desk in an office environment with many papers and fluorescent lights. The right side shows two women, one younger and one older, sitting on a couch and smiling while holding cups of tea, with a window and warm light in the background. A small logo for 'Z 株式会社善光総合研究所' is in the top right corner of the right image.

効率化がもたらす3つの価値

働くスタッフの納得感とやりがいへ



標準化



データ化



時間創出

基準が明確になり公平な評価へ

隠れたファインプレーを可視化

ムダが減り本来のケアが可能に

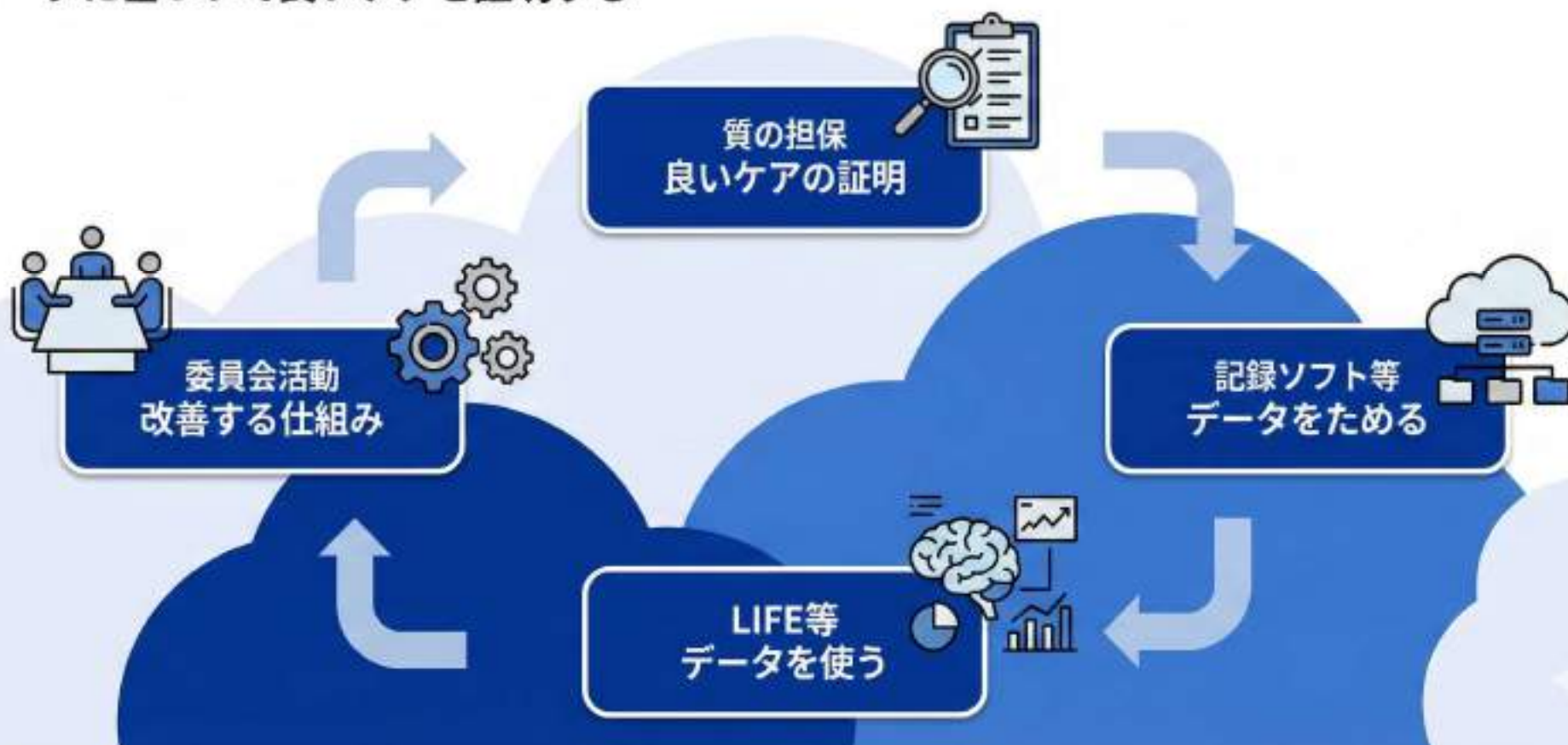
国が求めるのも、「データに基づく良いケア」



今日の一步が、未来の評価と経営の土台になる。

法人が準備すべきサイクル

データに基づいて良いケアを証明する



人を変えるな、仕組みを変えよ。

DXは、介護の本質である「温かい時間」を
取り戻すための、最強のパートナーです。



さあ、あなたの現場の「スイッチ」を入れよう。

介護現場の未来を変えるDX・業務改善セミナー

(株)善光総合研究所 今村貴志/池谷隆弘



1. なぜ今、変わらなければならないのか (Status Quo & Crisis)



20年間変わらない業務
(例: 紙の記録/一斉申し送り/
属人化シフト)

急激な変化
(利用者ニーズ高度化/
デジタル化/人材不足)

「現状維持=後退」

- ◆ 個人ふりかえり(2分):
あなたの現場の「昔から
変わっていない非効率」は?

2. DXの本質と、 3つの思考転換スイッチ (Core & Mindset Shift)

DXの本質
= 仕事の再設計
(リ・デザイン)

≠ ツール導入が目的



スイッチ①:
できない理由探しをやめる
(人がいない→ICTで補う?)



スイッチ②:
聖城をつくらない
(法律・安全以外すべて見直し)



スイッチ③:
属人化から脱却
(再現性のある「仕組み」へ)



- ◆ 会話タイム①(4分):
自分の現場で変える
必要がある点

3. 明日からできる “小さな成功”の作り方 (Small Wins)



- ① まずは「時間」をつくる
(週1回1H改善MTG,
1週間以内に実行)

- ② お金をかけずに
デジタル活用
(ビジネスチャット、写真共有、
音声入力で記録半減
※個人情報注意)

- ③ 必要に応じて
本格ICT
(介護記録システム、
見守りセンサー→睡眠把握
→不要訪室削減、安眠へ)

〈まとめ〉

人を変えるのではなく、仕組みを変える。
DXは“温かいケアの時間”を取り戻すための手段。
今日の学びを、まずは小さな一歩から。

4. 働きやすさと評価制度 へのプラス効果 (Positive Impact)

標準化 → 公平な評価
データ化 → 隠れた頑張り可視化



利用者と向き合う
時間が増える(最重要)
→ 満足度・やりがい向上、
離職防止

5. 今後の介護経営・ 報酬改定の方向性 (Future Policy)

LIFEによる科学的介護

生産性向上推進体制加算

ICT前提の人員配置柔軟化

「良いケアをデータで証明する」
ことが必須へ

6. 明日への一歩 (Next Step)

- ◆ 会話タイム②(4分):
あなたが“明日から実行できる
小さな一歩”は?
(例: チャット提案/音声入力試行/
申し送り見直し)